

「第5回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座」

西北地区：令和7年10月31日（金）つがる市生涯学習交流センター松の館 受講者11名
三八地区：令和7年10月15日（水）八戸市総合教育センター 受講者22名

1 内 容

【講 義】「今、親が悩むこと～親子のコミュニケーション～」

講師 岩手大学 人文社会科学部

准教授 はぎだい みき 萩臺 美紀 氏

【演 習】「あおもり親楽プログラムⅢ」

進行 県総合社会教育センター職員

【経 歴】

岩手大学人文社会科学部を卒業後、東北大学大学院教育学研究科博士課程を修了。在学中から臨床心理士として教育や医療の現場で相談活動に携わっている。

2020年から5年間、柴田学園大学生生活創生学部こども発達学科に勤務し、2025年からは、岩手大学人文社会科学部准教授として、臨床心理学や家族心理学に関する授業、研究指導を行っている。研究活動では、不登校・ひきこもりの子どもを抱える家族に焦点をあて、問題解決に効果的な家族のコミュニケーションについて研究をしている。

専門は、臨床心理学、家族心理学。



【講義要旨】

- ・親子のコミュニケーションに関する悩みとして多いのは、子どもへの注意（生活習慣・学習等）、子どもの反抗、コミュニケーションが少ない、不登校やひきこもり、発達に関する悩みである。
- ・子どもの問題や短所に意識が向きがちであるが、例外（問題が比較的ましな時）を探す視点をもつことで解決への糸口へとつながる。
- ・「人間は多面体」という意識をもち、子どもや友達の輝く側面を見つけ、褒めることでその子の力を引き出すことができ、問題を解決する基礎を養うことができる。
- ・健康的な家族の形とは、世代間の境界が明確であることである。縦のつながりより、横のつながりが強いことが望ましく、重要なことは祖父母ではなく、両親が決めることが大切である。
- ・家族集団の各ライフステージでの発達に伴い、生じる葛藤や課題を乗り越えていくことで家族が成長していく。その都度、家族のルールを変更・再構築することが必要である。

2 受講者の感想

- ・子どもと関わる時にどうしても問題を解決したい気持ちが強くなってその部分だけを見てしまいましたが、違う視点、違う角度からも見るのが大切だと学びました。
- ・今まで、原因を探して何とか解決しようとしていましたが、原因を探さないという新しい視点を学び、パズルのピースのようにはめるのが全てではないと思いました。もう少し自分の中の糸を緩めて、相手や保護者への支援を考えていこうと思います。
- ・直接的な原因を探すよりも例外（問題がちょっとマシな時）を探してみる。家族のルールを変更して乗り越える、人間は多面体…。新しい知識がたくさんで有意義な時間でした。